



加齢性難聴者への補聴器購入助成を求める請願書

2024年5月20日

岩倉市議会議長

関戸 郁文 様

請願(代表)者

住所 岩倉市

団体名 全日本年金者組合岩倉支部

支部長 鷲見 由美子

紹介議員 岩倉市議会議員

木村冬樹

塚崎海緒

柳谷理子

大野真治

【請願趣旨】

加齢性難聴は加齢に伴う聴力の低下によって起こる障害で、70歳以上の約半数が難聴になるとも言われています。耳が聞こえなくなることによって、危険の察知、家族、友人とのコミュニケーション等に支障をきたし、孤立、鬱状態や認知症の原因となる危険性も指摘されています。

補聴器の使用は加齢性難聴者の生活を支える有効な手段ですが、日本での使用率は欧米諸国と比べてきわめて低く、日本補聴器工業会の調査によると、自己申告でイギリス約53%、ドイツ約41%、韓国約37%、日本は約15%です。その原因は日本では補聴器の価格が10万円から50万円以上と高価であり、保険外適用のため全額個人負担となっていることです。年金生活者や低所得層の高齢者にとって、負担が大きすぎるため負担を軽減することが求められています。

補聴器購入助成金の創設を求める声は高まっています。全日本年金者組合の調査によると2024年4月現在、全国で270を超える自治体で補聴器の現物支給および購入費助成を開始し、愛知県では設楽町、犬山市、稲沢市、あま市、知多市、大府市、豊明市、岡崎市、武豊市、が助成を行い、一宮市と小牧市も7月から実施の予定です。昨年自治体キャラバンで検討中と7つの自治体で回答しています。

岩倉市においても早期に助成制度を創設していただきたく、以下の事項をお願いいたします。

【請願事項】

- 一、 国に対して加齢性難聴者の補聴器購入に対する公的助成制度の創設を要請してください。
- 二、 加齢性難聴者の補聴器購入に対する岩倉市独自の助成制度を早期に創設してください。
- 三、 特定検診に聴力検査を実施して下さい。